



2023年度  
年間聖句

愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難に耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

ローマの信徒への手紙 12章9節～12節

## わたしらしく生きていますか

広島流川教会牧師・広島女学院理事  
向井 希夫



「必要なことは、人それぞれだよ。マリアは自分にいいほうを選んだのだ。それを取り上げてはならない。」 ルカによる福音書 10章42節(本田哲朗訳)

広島女学院と広島流川教会とは、創立者が同じ砂本貞吉牧師です。広島流川教会年表には、「1886年10月25日、砂本貞吉牧師の招きに応じてJ・W・ランバス宣教師が来広。鳥屋町、野口旅館で最初の集会を開く。～中略～ 聖書研究の他に英語、修身、読書の3科を教える女子塾『広島女学会』(広島女学院前身)を開く。」と記されています。アメリカでキリスト教に出会い、牧師となり故郷・広島でキリスト教を伝えようとした砂本牧師は、教会と共に女性のための教育機関を設立したのです。

当時の明治政府は、学校を作り、教育に力を入れていきますが、その対象は男子中心でした。そこには、政府が目指していた富国強兵政策推進の意図がありました。豊かな国を作るための働き手、強い国を作るための兵士を教育していくという。

このような状況の中で女性の教育を担っていったのが、明治になって建てられていった全国にあるキリスト教主義の女子校だったのです。私はそれらの働きを生み出し、支えた背後には、聖書、イエスさまの女性理解、聖書の時代の女性たちとイエスさまの出会いがあったと考えます。

冒頭の言葉は、マルタとマリアという姉妹とイエスさまとの場面(ルカ福音書10章38～42節)におけるイエスさまの言葉です。マリアは、「女性は客を迎えたらもてなしをしなければならない」との当時の価値観に囚われず、イエスさまの足下で話を聞くのです。枠を外れているマリアに対して姉マルタが「思い悩み、心を乱している」ことに対して、語りかけた言葉です。

マリアは、当時女性たちを縛っていた考え、価値観から解放され、自由になり、自分で考え、選び、実行したのです。「よし、私はイエスさまの話を聞こう」と。そして、そのことをイエスさまは「いいほうを選んだ」と徹底的に認めたのです。女性たちとイエスさまとの出会いは、「ありのままの私でいいんだ」、「ほかの人と違う私でいいのだ」と思えるもので、それは彼女たちにとって大きな喜びの出来事だったのです。

広島女学院で聖書に会い、イエスさまに出会った皆さまの歩みが、「必要なことは、人それぞれだよ。」との言葉によって自由にされ、「自分にいいほうを選ぶ」ことのできる自立したものとなりますようにお祈りします。

# 2023年度全国代表者会議

2023年度全国代表者会議が4月21日(金)午後1時より中学チャペルで開催された。竹内会長の開催挨拶後、礼拝、永眠者への黙祷。出席者は各ブロック長、広島県内の各地区長、本部幹事、事務局の41名。議事は書記が2022年度事業報告を、会計が2022年度の会計報告を行い承認。2023年度事業報告を書記が、2023年度予算を会計が提案し、それぞれ承認された。

本部幹事	就任	退任
	書記 鶴 弓子(高29文英11) 新幹事 中野 尊子(高32文英14)	書記 山中 映子
支部長・地区長交代	就任	退任
	関東ブロック長 白井 京子(高23文英5)	坂下 恵
	大阪支部長 南方 香織(高40文英22)	岡本 裕子
	福井支部長 山本 暁美(高18)	伊藤 たか代
	富山支部長 山本 暁美(高18)	加藤 暁子
広島地区長 鶴 弓子(高29文英11)	吉光 みつえ	

## 2022年度 収支決算書

自2022年4月1日 至2023年3月31日 広島女学院同窓会 2023年3月31日作成(単位:円)

収入の部	科目	2022年度予算	2022年度決算
収入の部	同窓会会費	7,050,000	6,840,000
	大学 15,000円×268	4,200,000	4,020,000
	高校 15,000円×190	2,850,000	2,820,000
	会友	0	0
	事業収入	1,000,000	1,420,879
	グッズ販売	800,000	1,258,900
	バザー	200,000	161,979
	雑収入	0	7,650
	受取利息	0	98
	寄付金	0	745,610
	前年度より繰越金	13,498,464	13,498,464
	合計	21,548,464	22,512,701

支出の部	科目	2022年度予算	2022年度決算
支出の部	事務費	2,130,000	1,849,473
	消耗品費	500,000	107,895
	備品費	600,000	711,578
	人件費	1,030,000	1,030,000
	事業費	3,295,000	3,225,827
	全国代表者会議費	600,000	478,922
	宗教委員会費	130,000	100,000
	事業委員会費	950,000	1,118,070
	バザー委員会費	100,000	5,043
	同窓会報編集委員会費	1,235,000	1,268,055
	学年幹事・名簿委員会費	180,000	155,737
	ホームカミングデー補助費	100,000	100,000
	母校支援費	1,900,000	1,824,280
	アイリスセンター維持費	600,000	600,000
	ゲーンズ奨学金	800,000	800,000
	卒業証書カバー補助	500,000	424,280
	通信費	190,000	142,988
	電話料	120,000	89,948
	郵税	70,000	53,040
	旅費交通費	500,000	227,800
	同窓会館運営費	460,000	288,252
	設備費	300,000	140,800
	水道・光熱費	140,000	133,588
	消耗品等	20,000	13,864
	慶弔費	200,000	11,000
	寄付	500,000	0
	雑費	500,000	320,695
	予備費	200,000	0
	同窓会100年史制作費	2,500,000	0
	平和祈念式口座へ繰入	50,000	50,000
	基本金引当資産へ繰入	0	0
	(小計)	12,425,000	7,940,315
	次年度へ繰越	9,123,464	14,572,386
合計	21,548,464	22,512,701	

## 2023年度年間行事予定

7月15日(土)	関東ブロック 夏雲の集い
8月6日(日)	広島女学院「平和祈念式」
10月	中部ブロック会 福岡・佐賀合同支部会 広島地区会
10月13日(金)	
11月3日(祝・金)	同窓会バザー(中高文化祭)
11月	同窓会バザー(女学院大学あやめ祭)
11月12日(日)	香川・徳島支部会
12月	同窓会クリスマス会(宗教委員会)
2024年1月16日(火)	高校 同窓会受け入れ式
2月5日(月)	同窓会報「花あやめ」17号 発行
3月14日(木)	大学 同窓会受け入れ式
毎月 第4水曜日 バイブルクラス(8月は休会)	

※詳しくは  
広島女学院同窓会HPを  
ご覧ください。

こちらから  
アクセスいただけます



## 召天

謹んで哀悼の意を表します。

国川 三千代	高19	宮本 寛子	高11
高須 めぐみ(田村)	短20	倉田 美代(則末)	高女52
藤巻 美恵子(桂)	高9	川本 房子(藤井)	高女51
木田 智子(横山)	文日14	清水 奈重子(角田)	高女56
市木 たか子(瀬川)	高7	平野 華子(木村)	専庭3
野邊 英子(藤原)	高女52	前田 宏子(西本)	短9
出本 千鶴子(鈴木)	高女55	大高 儀子(井上)	高13
平田 月子(吉村)	高女50専庭8	辛川 照子(青木)	高5
徳田 桂子(秋信)	高11短10	小國 和子(林谷)	短10
佐藤 卓子(升田)	短4	野村 洋子(三島)	高36文英18
久保 晶代	文英33	木下 立子(合田)	高5
武田 弘子(児玉)	短3	中森 純子(仁枝)	高9短8
山上 未遥	人幼心5	山本 幸代(辻)	専家17
平原 カズエ(金村)	高6	平岡 直子	高20
迫田 喜枝(中村)	専被3短3	西田 喜久恵(津田)	高女52
青山 洋子	高12	馬場 節子(馬場)	専家26
福田 桂子(大賀)	高女52	荒井 千栄子(新藤)	高11短10
三十日 真弓(後藤)	短25	矢野 多江子(鉄本)	高女55高1
高杉 照子(小鷹狩)	専保2	武永 舜子(武永)	高女55高1
宮地 れい子(今井)	大英5	大崎 里恵	文社2
松井 桂子(斎藤)	高9	日永田 伸子(横原)	高5
日高 康子(立石)	高15	小島 恵子(五重目)	高24短23
熊谷 正子(真木)	専庭6短2	川本 博子(梶原)	高女52
木下 圭子(高洲)	高11短10	平原 祥子(大江)	大英12
藤田 美紗子(前野)	短11	川村 衣子(水元)	専被4
井本 歌子(谷本)	高3	木村 裕子(栗栖)	大英17
横田 美代子	高女55高1	鍵山 秀子	短28
清住 久美子(岡田)	高31	竹内 美紀(濱田)	高38
徳永 裕美子	短14	増本 嘉子(伊達)	高7

2022年11月から2023年3月までにご逝去のお知らせをいただいた方々です。(敬称略)

## 同窓会バザーのお知らせ

日時 2023年11月3日(金・祝) 10:00~13:00

場所 ゲーンズホール前テント(バザー)

同窓会館(カフェ・アイリス)

バザーのための献品を常時受け付けております。

お問い合わせ:同窓会館 TEL/FAX (082) 221-1059



思い返せば15年前、私が編集委員になった頃、同窓会報は学院報の中の2頁足らずのものでした。その後独立して「花あやめ」としてスタートするにあたり、素人の私たちは毎号毎号試行錯誤の連続でしたが、先生方や同窓生の言葉にはいつも勇気と元気をいただきました。特にサーロー節子さんがノーベル平和賞授賞式直後のご多忙な時に寄稿して下さり最終校に間に合った時はとても感激しました。また、2015年8月に発行した「被爆70年記念 平和を祈る人たちへ 広島女学院同窓会被爆60周年記念証言集 改訂版」を1年半か

けて日本語と英語の校正をしたことはとても貴重な経験でした。戦争を知らない私たち編集委員にとっても、一編一編読み進むごとに原爆が単なる過去の出来事ではない現実の痛みとして胸に迫り、涙で作業を中断せざるを得ないことが多々ありました。この証言集は一人でも多くの若い人たちに、是非読んでいただきたいと心より願っています。

今号で私は編集委員を卒業しますが、これまでご協力いただいた方々に心よりお礼を申し上げますとともに、これからも「花あやめ」をご愛読いただければ幸いです。(鶴 弓子)

Mystery

# 売店ランバスの謎

## なぜ庄原にランバスの名が!?

四季折々に楽しめる県北庄原備北丘陵公園、ここに「ランバス」という名前の売店があるのをご存じでしょうか? 広島女学院の創立に砂本貞吉とともに関わった宣教師J.Wランバス(老ランバス)とW.Rランバス(若ランバス)父子の名前がなぜ備北丘陵公園の売店の名前になっているのか、その謎を歴史と共に紐解いてみましょう。



### 【砂本貞吉とランバス父子の出会い】

1882年(明治15年) 船乗りになるためにロンドンに向かう道中サンフランシスコでキリスト教と出会い洗礼を受けた砂本。4年後に帰国し、横浜から広島へ向かう途中、神戸にいた老ランバスを訪ね広島での伝道を依頼。これが二人の出会いとなった。この後、若ランバスと共に広島を拠点に瀬戸内伝道活動をスタート。

◀左:砂本貞吉、右:若ランバス



### 広島女学院創立に関わったランバス父子

1886年(明治19年) 老ランバスと砂本は、聖書研究と英語教育のための小さな私塾「広島女学会」を開く。これが**広島女学院の誕生**となる。

ランバス父子の宣教範囲は瀬戸内全域と広いため、日本宣教責任者であった若ランバスが宣教師の派遣を南メソジスト監督教会に要請。それに応じて来広したのが**女性宣教師ゲーンズ**(1887年)。

その後もゲーンズを助けて英語などを教える傍ら伝道活動。ランバス一家は日本家屋に二階を増築し、ゲーンズと一緒に住んでいた。その後広島を離れ神戸に(1889年)。



若ランバス



ナニーB.ゲーンズ

軌道に乗ったかに思えた英和女学校(広島女学院の前身)だったが、安芸門徒の多い広島での反発は強く成り立たなくなり、ゲーンズは学校を閉じ神戸のランバスのもとに引きあげ**失意の日々**を送る。

しかし、関西学院を設立するために獅子奮迅の働きをしている**ランバスの姿**に勇気づけられ再び広島に戻り、**学校を再開**。

### 「瀬戸内伝道の父」としてのランバス父子

ランバス父子は広く関西から四国・九州にわたり多くの教会や学校を設立し、「瀬戸内伝道の父」と呼ばれるようになった。訪れた地の人々から親しまれ地道で慈愛に満ちた伝道者であった彼らの姿は多くの人々の心に残っている。

#### Episode 1

「ランバス師は昔の赤い郵便配達車のような大八車に聖書の一杯入った箱をつけ、それを引いて私の家の前の通りなどをよく伝道に来られた。赤い車の横に十字架の書かれた白旗が立ててあった。私たちはその人を赤ひげの異人さんと言っていた。」

(廿日市での伝道風景)



老ランバス

#### Episode 2

「庄原英学校の12~15歳の腕白小僧5・6人が、習った英語が本当に通じるか試すため、J.Wランバスに会いに歩いて広島に行った。通じた時の喜びは大変なもので、ランバスさんが一人一人の頭を撫でたりキャンデーやバイブルを配って親切にしてくれた。」

(のちに広島の農政に尽くした黒田穰翁の回顧録より)

庄原英学校へ砂本と共に伝道に訪れ、非常に大きな影響を与えた老ランバスの姿と、その名を何とか記憶にとどめたいという庄原や瀬戸内の人々の思いが思われる。



「かつて庄原の人たちに親しまれ愛されたランバスのことを何とか後世に残したいと考えて庄原英学校の元校舎を模して作られた備北丘陵公園売店の名として『ランバス』を残すことになった。」

(元庄原市職員)

滞日期間は老ランバスが6年、若ランバスが4年と短かったが、砂本と並び、ランバス父子なくしては広島女学院の誕生はなく、また女学院の外においても多くの人々に愛を与え親しまれていた事実を知りました。

備北丘陵公園に行かれる折にはぜひ売店に立ち寄り、ランバス父子と母校の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

## ヒロシマを伝える



中国新聞記者  
森田 裕美さん  
(高44)

昨年末、実家で母からあるものを手渡され、赤面しました。四半世紀近く前の広島女学院中学の卒業式次第と、式で私が読み上げたあいさつ原稿でした。書くことを生業とする現在の私から見ると、恥ずかしくなるような稚拙な文章。しかしながら中学生生活の充実ぶりは伝わってきました。

当時の私には想像すらできなかった新聞記者となって、はや30年近くになります。様々な仕事をしてきましたが、離れ難く関わっているのが原爆平和報道です。78年前、米軍が広島に投下した原爆が人類に何をもたらしたのか。原点を掘り起こして記録し、その今日的意味を考え、どう継承するかに知恵を絞る一。先輩記者から脈々と受け継がれてきたそんな報道の一端に私も携わってきました。

中高時代放送部にいた私は漠然とマスメディアに関心を持っていたものの明確な目標があったわけではありません。何となく文学部を志し、一人暮らしに憧れて東京の大学に進みました。文学を学ぶつもりが北京に留学して語学にはまり、海外取材がしたくて報道記者を志すようになったのは、就職活動を始める直前。そんな目先しか見えていなかった私ですから入社してからは、壁にぶち当たってばかり。それで

も続けて来られたのは、思い出のさえつらい体験や無念を私に託してくれた被爆者や、「核時代」におけるヒロシマの意味を教えてくれた先人たちの存在があるからです。その志を伝えることへの、私なりの使命感にほかなりません。

振り返れば、根っには中高を過ごした女学院での学びがあります。『夏雲』、平和を祈る週やキリスト教強調週間、碑めぐり案内…。被爆という原点から世界情勢にまで視界を広げることはもちろん、見えないものにこそ目を向ける姿勢や、他者への共感といった土壌が育まれたように思います。

世界では今も戦火が絶えず、核戦争さえ懸念されます。日本を含め世界の国々は自国を守るためにと軍拡へとはやっているように見えます。そうした中で核兵器をなくそうと訴えることを、「理想主義者だ」「現実的でない」と冷ややかに見る向きもあります。

しかし、果たしてそうでしょうか。私たちはたった一発の核兵器がもたらす痛みや苦しみを先輩たちの体験を通して知っています。

小さな力かもしれませんが。それでも人間の側のリアル(現実)こそ伝え続けねば、と思いを強くしています。

### プロフィール

広島女学院中高、お茶の水女子大卒。新聞社入社後は報道部、文化部、論説委員などをへて、昨年よりヒロシマ平和メディアセンター。

報道部時代は、南米、北米、韓国などに暮らす被爆者の聞き取りを続け、援護政策の問題などを追究。米英仏、インド・パキスタンなど核保有国の実情を取材したほか、マーシャル諸島共和国などにも滞在し核被害者の聞き取りを行う。文化部時代は原爆と表現、近年はヒロシマを軸にした近現代史、記憶の継承、ジェンダー表象などについて取材執筆。現在は、中国新聞朝刊で書評コラム「A Book for Peace 森田裕美 この一冊」を担当している。共著に『広島～爆心都市からあいだの都市へ』（インパクト出版会）、『事典 太平洋戦争と子どもたち』（吉川弘文館）ほか。

## 2023年ホームカミングデー報告

ホームカミングデー実行委員長  
田淵 桂子

4月22日(土)、「隣人を愛せよ～つなぐ真心～」をテーマのもと183名が集まり、リーガロイヤルホテル広島においてホームカミングデーを開催しました。3年以上にわたるコロナ渦を経て、やっとテーブルのアクリル板を外して会食することもでき、会場の雰囲気も安心感で和んでいたように思います。

イベントとしては森田裕美さん(高44)に「ヒロシマを伝える 広島から伝える」というテーマでご講演いただき、また、ピアニストの田中香月さん(高44)とバイオリンアンサンブルIRISのみなさまによる演奏をご披露いただき、楽しいひとときを過ごすことができました。

さまざまな年代が集まるホームカミングデーは、女学院生としての絆と歴史を感じることでできる貴重な機会だとあらためて感じました。

実行委員会の任務は終えましたが、おとなしい中にも企画力、判断力、実行力を備えたこのメンバーと一緒に活動できて、ほんとうによかったと心から思える1年間でした。



## 劇団銅鑼公演のお知らせ

農業高校に入学したマナミたちは、見学で訪れた動物愛護センターで殺処分された動物たちの骨が、「ゴミ」として捨てられていることを知る……。声を上げることもできずに死んでいった動物たちの「いのち」を再生させようと立ち上がった、5人の女子高校生たちの真実の物語。この舞台を通して、動物のいのちだけでなく自分のいのち、人のいのち、生きとし生けるもののいのちのことを少しだけ真面目に考えるきっかけにしてもらえたらと思います。 佐久 博美(高32)

2023年10月24日(火) 18時半開演(18時開場) 予定  
会場 広島市東区民文化センター ホール  
料金 一般 3,000円 高校生以下 1,000円  
協力 広島女学院同窓会  
詳しくは、劇団銅鑼のHPをご覧ください。  
<http://www.gekidandora.com/>

## 無意識の偏見



ニュージーランド大使館  
エデュケーション・ニュージーランド  
駐日代表  
北岡 美佐子さん  
(高50)

今年2月に退任した、世界で初めて在任中に産休を取得したことで有名な、ジャシンダ・アーダーン  
ニュージーランド(以下、NZ)元首相は、退任理由に、子育て、パートナーとの結婚(結婚式が長らく延  
期になっていた)を挙げた。私は一国の首相が、さらっとそのような発言ができること、またそれを違和感な  
く国民が受け入れるNZ社会に勇気づけられる。

最近、国連SDGsやLGBTQI+など、英語のフレーズが「バズ」っているが、国民による真の理解を得  
る前に、独り歩きしているように思える。東京で日常生活を送る中で、これらの課題に対する「無意識の偏  
見」は、今も根強く残っていると思う。私は今、妊娠9か月目に入り臨月を迎える。子供の父親である私の  
パートナーは、婚約者であり、結婚はしていない。しかし私たちが行く先々で、「いつご結婚されたんです  
か?」と聞かれると、不思議に感じる。多様性が認知されている社会であれば、パートナーシップの形は  
多種多様であるべきだ。しかし、結婚があつての出産、大使のパートナーは「夫人」であるべき、といった  
無意識の偏見が多々見受けられる。また、こういった一見些細な発言こそが、人を傷つけるのも事実だ。

例えば、子供が欲しいということが最終目的であれば、結婚が前提である必要はない。私も経験した  
卵子凍結、また精子ドナーなどの選択肢もある。しかし、無意識の偏見に縛られると、自分が何をもちて幸せと感じるのか、自身のウェルビー  
ング(心身ともに健康な状態)が脅かされてしまう。アーダーン元首相は、女性が選択肢を持つことの重要性を常に強調している。「女性は、  
キャリアを持ち、母親、パートナーになることもできる。これらすべてになることもできるし、すべてにならないこともできる。その選択肢があることを忘れ  
ないでください」と述べている。NZでは、出産後、子育てに専念する人もいれば、時短で管理職に復帰する人もいる。また、パートナー同士が  
育児休暇を分け合って取得できる制度もある。そんな多種多様なロールモデ  
ルも必要だと思う。

私はNZ大使館に勤務して8年目になるが、アーダーン元首相来日時に、  
一緒に仕事ができただけはもちろん、同い年の女性として、ショッピングや日本  
のグルメを楽しみながら、お互いの価値観を共有できたことは、一生の思い出  
だ。これからは「無意識の偏見」をなくすために、優しい社会づくりに貢献して  
いきたいと願う。

### プロフィール

1980年米国ロサンゼルス生まれ、広島育ち。広島女  
学院高校卒業後、単身渡米。スタンフォード大学経済  
学部卒、コロンビア大学教養学部修士号取得。米、オ  
セアニア、日本での在住経験を生かし、2015年より在  
日ニュージーランド大使館 エデュケーション・ニュー  
ジーランド(政府教育広報機関)にて、ニュージーランド  
留学、ニュージーランドと日本の教育交流に関する  
広報活動を担当。また、ヘイミッシュ・クーパー駐日  
ニュージーランド大使のパートナーとして、国際交流  
に関するボランティア活動を行っている。

### 佐伯地区 クリスマス礼拝

12月2日(金)  
ホテル広島サンプラザ  
参加者22名

去年に引き続き船越聖先先生(元数学  
教諭)のご参加に加え、今回は廿日市教会・  
東歩牧師をお招きしてクリスマスメッセ  
ージをいただきました。東牧師の力強い「祝  
禱」を受け、心からのやすらぎと感動に  
涙しました。

親睦会では、美味しい食事を楽しみ  
ながら、お一人お一人の近況をお話  
いただきました。また、今回は女学院  
グッズ「蜜屋・どら焼き」や聖人のお  
名前とメッセージが記されたサンタ  
クロースからのサプライズプレゼント  
もあり、驚きの連続でした。

最後は、校歌を声高らかに歌い、大  
盛会となりました。 森 静子(文英1)



### 関西ブロック クリスマス礼拝

12月3日(土)  
大阪東十三教会  
参加者17名

依然として収まらないコロナ禍の  
もと、昨年と同じく礼拝だけでも、大  
阪支部の役員の方々が準備してくだ  
さいました。

岡本牧師のメッセージをいただくの  
は5回目になります。『弱った旅人に  
寄り添って歩いてくださっているイエ  
ス様。ふと気付くと足跡が1人分しか  
無い。それはイエス様が見捨てられ  
たのではなく、困憊した旅人を背負  
われていたのだ』というお話を例に  
「共にある神」と題してのお話でした。  
讃美歌をたくさん歌い、クリスマスの  
意味と自分の生き方を真面目に考  
えるひと時でした。

山口 裕子  
(高15)



### 千葉支部 クリスマス礼拝

12月5日(月)  
新津田沼教会  
参加者16名

支部でクリスマス礼拝をする度に、  
女学院時代が思い出され、一瞬にして  
学生時代に戻れる空気を感じます。だ  
からこそ、礼拝を続けていきたいと思  
います。

今年の出席者は16名、昨年の様に  
期せずして50年振りの再会というサ  
プライズはありませんでしたが、コー  
ナ禍でも礼拝が出来たことは嬉しい  
事でした。

慌ただしい一年の終わり、リセット  
タイムとして心静かな一時を持てる  
のが同窓会のクリスマス礼拝だと思  
います。

村中 陽子  
(高27文英9)





## 国際教育委員会の思い出



非常勤講師  
向井 均 先生

国際教育委員会の仕事をするようにと黒瀬眞一郎校長(当時)から指示されて1997年4月に広島女学院の一員になりました。学級担任はしませんでした。中学英語部、高校卓球部、中学新聞部、オーケストラ同好会の顧問をしました。国際教育の仕事は、留学生の迎え入れと派遣、夏のホームステイ、外国からの来客の受け入れなどでした。

留学生はアジアと英語圏から1人ずつ来ていました。インドネシアのリスキーさん(2000年-2001年在籍)と最近Facebookでつながりました。今は3人の少年の母です。彼女と同期のローレンさんは現在オーストラリアで弁護士。来年来訪するそうです。アメリカにいるマイニアさん(1999年-2000年在籍)は精神科医院を開いています。この年末に来るとのこと。

8月のホームステイではメルボルンのキルヴィントン・スクールに2回引率し、2回ともスコット家にお世話になりました。スコットご夫妻も2011年に私の家に来ました。

ペンシルベニア州の高校社会科教員グループが毎年来校していました。このグループを介して2005年にアメリカの高校生と女学院生とのPeace Conferenceが開かれました。核、環境、ジェンダー、人身売買をテーマに4日間行いました。2007年にはイタリアの高校生と核に関して研究会を開きました。これはワールド・フレンドシップ・センター理事長(当時)の森下弘先生が仲立ちでし

た。どちらも30人以上の女学院生が参加しました。

これらの行事への参加者は2004年に誕生したJogakuin International Cooperation Society(JICS、ジックス)が主体でした。JICA主催の高校生対象研修会に参加した4人の生徒が「私たちが何かしたい」というてできた組織で、国際教育委員会が指導することになりました。JICSは積極的に活動しました。最初はイラク人医師の講演会開催でした。ほかにフェアトレード、ストリート・チルドレン、ネットカフェ難民、日本国憲法、貧困問題なども学びました。退職直前の2008年3月下旬、福山盈進が沖縄尚学と女学院に呼びかけた「中高生平和サミット」がありました。沖縄問題とホロコーストを中心に広島と福山で4日間行いました。

生徒の活動に多少ともかかわることによって社会と接していたのに、退職して非常勤になるとそれが切れてしまいました。2015年4月に広島市立大学大学院(平和学)に入学しました。人権教育を研究する予定でしたが、入学後「黒い雨」被爆者の存在を知って方向転換しました。修士課程を経て現在は博士論文として「黒い雨」被爆者運動の歴史を執筆中です。

### プロフィール

1942年生まれ。1967年から修道中高(英語)、1989年9月英国の国際学校(英語、日本語、世界史)、1997年4月広島女学院中高非常勤講師(英語)、1998年専任教諭、2008年3月定年、現在非常勤講師。



### 神奈川支部 クリスマス礼拝

12月16日(金)  
藤沢教会  
参加者12名

3年ぶりの開催となり黒田直人牧師による礼拝、そして黒田(丸本)尚子さん(高31)のオルガン伴奏で讃美歌を歌った後は、白井京子東京支部長紹介の吉原美香さんによる朗読を楽しみました。百田直樹の短編集から「猫」というクリスマスにぴったりのお話を吉原さんの穏やかな語りで聴き、参加者の心も温まりました。

感染状況も思わしくない中、少人数の集まりとなりましたが、思いがけない同級生同士の再会もあったようで、年末を控えた中、貴重なひと時を過ごすことができました。  
常泉 由里  
(高24)



### 東京支部 クリスマス礼拝

12月17日(土)  
銀座教会  
参加者32名

東京支部では毎年、クリスマス会を行っていますが、2022年も、同窓生やご家族とともに、礼拝を持つことができました。

高橋牧師による聖母マリア様に焦点を当てた意義あるお説教をいただき、イエス・キリストの生誕をお祝いすることの意味がさらに深まりました。草間美也子先生のパイプオルガンの演奏を東京のど真ん中銀座で、外の喧騒を忘れて静かに聴かせていただきました。

懇親会では、中高生のお子様をお連れになった同窓生や、90代の大先輩もいらしてください、終始和やかに楽しい時間を過ごすことができました。  
白井 京子  
(高23文英5)



### バイブルクラス クリスマス礼拝

昨年の12月14日、同窓会のクリスマス礼拝を広島流川教会で行いました。向井牧師はあいにくご不在でしたが、数名の参加で聖書を輪読し、互いのクリスマスの思い出を語り合いました。

卒業してからの日々は、それぞれに異なり年末の忙しさの中で、クリスマス教会や家族で祝う人、そうでない人と様々です。しかし、本学の同窓生として、私達が共有するクリスマスの思い出は紛れもなく、讃美歌コンクールであり、ハレルヤコーラスのようです。クリスマスを前にして、皆で心をひとつに熱中し、何と胸踊らせた事でしょう。

『神は私達と共におられる(マタイ1章23節)』その喜びを年月を経て、若かりし日に思いを馳せる心温まるクリスマス礼拝のひとつでした。いつの時も本学で学んだ幸いと神様への感謝を覚えます。